

# 体育科学習指導案

日 時 平成26年10月9日(木) 5校時  
場 所 体育館  
児 童 3年生 3名 4年生 3名 計6名  
指導者 八重畑昌司

## 1 単元名 「めざせ跳び箱名人～いろいろな技に挑戦～」(B 器械運動 ウ 跳び箱運動)

### 2 単元の目標

#### 〈態 度〉

- ・運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動したり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。

#### 〈思考・判断〉

- ・自己の能力に適した課題をもち、技ができるようにするための活動を工夫できるようにする。

#### 〈技 能〉

- ・基本的な支持跳び越し技をできるようにする。

### 3 単元について

#### (1) 教材について

「器械運動」は、器械・器具を使った「技」に取り組んだり、それを達成したりしたときに楽しさや喜びを味わうことができる運動領域である。また、より困難な条件の下でできるようになったり、より雄大で美しい動きができるようになったりする楽しさや喜びがある。

その一つである「跳び箱運動」は、いろいろな高さや向きの跳び箱を、安定した動作で跳び越したり、跳び越し方を工夫して挑戦したりすることが楽しい運動である。つまり、跳び箱の上の空間で、巧みさやダイナミックさや美しさを表現するために、技術を分析し、技を追求していくことが「跳び箱運動」のおもしろさの中心と考える。

それを踏まえ中学年では、基本的な支持跳び越し(切り返し系・回転系)に取り組み、それぞれの系について自分の能力に応じた技ができる教材として扱いたい。

#### (2) 児童の実態について

体育の学習に意欲をもって取り組む児童がほとんどである。アンケートでも「体育が好きですか。」という設問に「強くそう思う」が4人、「そう思う」が2人という回答結果であった。体力・運動能力テストの結果では「20mシャトルラン」が男女共通して全国比を下回ったが、その他は個人差があるものの、ほぼ全国比を上回っている。また、1学期に学習したマット運動では、できない技にも何回も挑戦したり、家庭でも練習したりする児童もいて、仲間とできる喜びを感じることができた。

しかし、アンケートで「技の動きを考えるのがおもしろいですか」という設問に「そう思わない」と回答した児童もいた。マット運動の様子から腕支持感覚が十分でない児童も見られるので、跳び箱運動においても楽しみながら基礎感覚づくりや基本の動きを身に付けさせたり、仲間とかかわりながら運動のポイントを見付けて学習する場面を工夫したりすることが必要である。

#### (3) 指導について

本単元は、3・4年生の基本的な技である「開脚跳び」「台上前転」ができることを目標としている。そこで毎時間の基本の動きづくりの運動で、器械運動の基礎的な感覚をつくったり基本的な動きを身に付けさせたりしていく。

そして、主運動の際には技のポイントを明確にして、練習に取り組みさせることによって技術の向上へとつなげたい。また、仲間に動きを見てもらったり、VTRで確認したりすることで自分の動きを客観的にふり返り、その評価を練習の励みとなるようにしていきたい。

複式学級の特性を生かして、上学年が下学年に教えたり、お互いのよさに気付き声掛けしたりしながら学習が進められるようにしていきたい。

#### 4 指導計画

	1	2	3	4	5 本時	6	7	8
	〈基本の動きづくり〉 ①うさぎの足打ち ②壁倒立 ③側方倒立回転 ④後転 ⑤うさぎ跳び ⑥丸椅子で馬跳び ⑦動物歩きからの前転 ⑧ステージから前転 ※この中から本時の学習活動に合わせて、4～5つの運動を行う。							
10	オリエンテーション ・学習の進め方、約束 ・基本の動きづくり ・ふり返りの仕方	〈基本〉 開脚跳び						発表会  学習のまとめ
20		台上前転						
30		大きな開脚跳び	かかえ込み跳び					
40		〈発展〉	大きな台上前転					
学 習 の ふ り 返 り								

#### 5 評価計画

時間	主な学習活動	学習活動における具体的評価規準（B：概ね満足できる状況）		
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能
1	オリエンテーション ・学習の進め方、約束 ・基本の動きづくり ・ふり返りの仕方	・基本の動きづくりの運動や跳び箱運動の約束を守って運動しようとしている。（観察・学習カード）		
2	・基本の動きづくり ・基本の技の練習 開脚跳び、台上前転	・友達と協力して、器械・器具の準備や片付けをしようとしている。（観察）	・開脚跳びのポイントについて学び合い、見付けている。（観察・学習カード）	
3	・基本の動きづくり ・基本の技の練習 開脚跳び、台上前転 ・発展技の練習 大きな開脚跳び かかえ込み跳び			・開脚跳びのポイントが分かっている。（観察・学習カード）
4	・基本の動きづくり ・基本の技の練習 開脚跳び、台上前転 ・発展技の練習 大きな開脚跳び、かかえ込み跳び	・友達のよさに気付き、励まし合って運動をしようとしている。（観察）		・基本の技や発展技のポイントが分かっている。（観察・学習カード）
5 (本時)	・基本の動きづくり ・基本の技の練習 開脚跳び、台上前転 ・発展技の練習 大きな開脚跳び、かかえ込み跳び		・まっすぐに台上前転するためのポイントについて学び合い、見付けている。（観察・学習カード）	
6	・基本の動きづくり ・基本の技の練習 開脚跳び、台上前転 ・発展技の練習 大きな開脚跳び、かかえ込み跳び 大きな台上前転	・自分の技のめあてに向けて進んで運動しようとしている。（観察・学習カード）	・技のポイントが分かり、友達のよい動きを見付け、自分の動きに取り入れている。（観察・学習カード）	

7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本の動きづくり</li> <li>・基本の技，発展技の練習</li> <li>・グループでの発表練習</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の力に合った技ができる。</li> <li>(観察・学習カード)</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本の動きづくり</li> <li>・発表会</li> <li>・学習のまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動する場や器械・器具の使い方などの安全を確かめようとしている。</li> <li>(観察)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の力に合った技ができ，友達とも合わせてできる。</li> <li>(観察・学習カード)</li> </ul>

努力を要する児童への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・励まし，褒めながら学習に取り組ませる。</li> <li>・何を，どうするのか一緒に確かめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よい動きを見せ，どのようなところがよいのか言語化させたり，友達の説明を聞かせたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の力に合った技や練習方法に取り組ませ，補助をしたり，アドバイスをしたりする。</li> </ul>
--------------	--	--	---

## 6 本時の指導

### (1) 目標

まっすぐに台上前転するためのポイントを見付けることができるようにする。(思考・判断)

### (2) 研究の重点を受けての本時の構想

#### 「わかる」「できる」につなげる指導の工夫(基本の動きづくり)

基本の動きづくりの運動で，本単元である跳び箱運動に必要な基礎感覚や基本の動きを身に付けさせたい。本時では，台上前転へのつながりを意識して，壁倒立，側方倒立回転，うさぎの足打ち，動物歩きからの前転，ステージから前転を行う。腕支持感覚がまだ十分ではない児童もいるので，壁倒立，側方倒立回転，うさぎの足打ちの3つに取り組ませる。

どの運動でも，よい動きを褒めることでポイントを意識させたり，意欲を高めたりして，運動に取り組ませたい。また，繰り返し練習すること，口伴奏を入れて動きのイメージを明確にすることで，できるようになった喜びや一体感を感じさせたい。

#### 「わかる」「できる」学習活動の工夫(仲間と運動のポイントについて学び合う，課題をもつ)

アンケートの「技の動きを考えるのがおもしろいですか」という設問で，「強くそう思う」が3人，「そう思う」が2人，「そう思わない」が1人で，研究の重点の1つである「わかる」に課題があることが分かった。また，本時重点的に取り組む台上前転の既習事項であるマット運動の前転で，頭頂部をつけて回ってしまう児童もいる。

そこで本時では，まっすぐに台上前転するためにはどうしたらよいか，グループごとに話し合ったり，実際に動いて確かめたりする学習を行う。仲間と運動のポイントについて考え，自分達で見付ける楽しさを体験させていきたい。その中で，まっすぐに台上前転するポイントの1つである，跳び箱に後頭部をつけて前転することにも気付かせたい。

技の習熟度には個人差があるので，学び合いのときの台上前転の様子をビデオカメラで撮影し，自分の技の完成度をVTRで確かめることで，自分の課題をもたせたい。そして，練習の場を選択し，自分の課題に気を付けて技の練習に取り組ませていきたい。また，台上前転でも口伴奏をつけて，動きのイメージをより明確にしながら運動に取り組ませていく。

#### 学びの共有化(仲間と運動のポイントについて学び合う，ふり返り活動)

本時の課題について，仲間と運動のポイントを話し合ったり，実際に動いて確かめたりすることで，腰を高くする，後頭部を付けて前転するなどの運動のポイントを共有させたい。仲間と一緒に考えることで運動のポイントに気付くことができる学び合いの時間になるように，4年生を中心に学習が進められるようにする。

また，終末のふり返り活動の時間に，授業の課題についての自分と友達の様子について学習カードに記述させ，次時に生かすために発表させる。

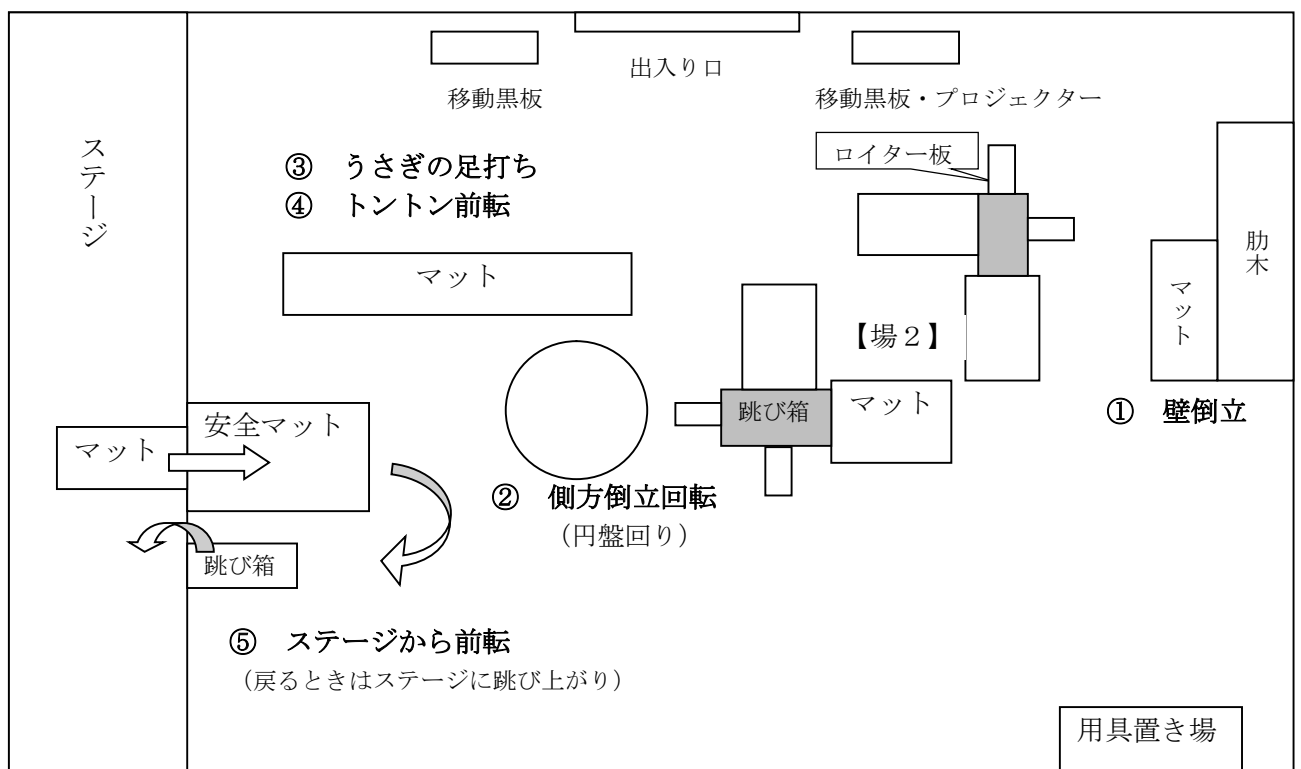
(3) 展開 (5 / 8 時間)

段階	学習活動	・指導上の留意点 ○研究に関わる手立て ☆評価規準	準備物
導入 7分	1 あいさつをする。 2 基本の動きを身に付ける。 <b>【場1】</b> ・壁倒立 ・側方倒立回転 ・うさぎの足打ち ・トントン前転 ・ステージから前転	・事前に健康観察, 服装, 器械・器具の安全を確かめておく。また, <b>【場1・2】</b> を準備する。 ○跳び箱運動に必要な腕支持感覚, 逆さ感覚, 高さ感覚を身に付けるための運動を, 安全に気を付けて行わせる。 ○よい動きをしている児童を褒めて, ポイントを意識させたり, 意欲を高めたりする。	跳び箱 マット 安全マット BGM
展開	3 これまでに学習した技を練習する。 <b>【場2】</b> ・開脚跳び ・大きな開脚跳び ・かかえ込み跳び 4 場の準備をする <b>【場3】</b> 5 学習課題を確認し, 技のポイントについて学び合う。	○お互いの様子を見て, 技のポイントについてアドバイスさせる。 ・発展技は, 個に応じて取り組ませる。 ・ペアで器械・器具を持つなど, 安全面に十分配慮する。 ・前時までの学習カードの記述から課題につなげる。	跳び箱 ロイター板 マット BGM
開 31分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">             まっすぐに台上前転するためのポイントを見付けよう。           </div> ・グループごとに学び合う ・ポイントを共有する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">             ・両足で踏み切る。              ・着手し, 腰を高くする。              ・後頭部を跳び箱につける。           </div> 口伴奏 「トン・パン・クルン・トン」 ・VTRで, 今の自分を確かめる ・練習方法や場を選ぶ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             フォーム跳び箱コース              (トントン前転または助走から)              ロイター板、跳び箱コース           </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">             ☆まっすぐに台上前転するためのポイントについて学び合い, 見付けている。(観察)           </div> ○グループごとに話し合わせたり, 実際に技に挑戦させたりしながらポイントについて考えさせる。 ・児童の様子をビデオカメラで撮影する。 ○見付けたポイントを動きも入れながら説明させる。 ・児童が見付けたポイントを整理する。 〈予想されるポイント〉 ・両足を揃えて踏み切る。 ・跳び箱の脇をしっかり持つ。 ・腕を伸ばす。 ・腰を高くする。(おしりを高くする) ・後頭部を付けて前転する。 ・へそを見て前転する。 ○自分の技の完成度をVTRで確かめ, 自分の課題をもたせる。 ○自分の力に合った練習方法や場を児童に選ばせる。	跳び箱 ロイター板 マット 安全マット ビデオカメラ ビデオカメラ プロジェクター ネームマグネット

<p>展 開 31分</p>	<p>6 見付けたポイントや自分の課題を意識して台上前転を練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選んだコースごとに練習</li> <li>・グループごとにポイントを確認しながら練習</li> </ul>	<p>○口伴奏しながらお互いの様子を見て、技のポイントについてアドバイスさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マットのずれ等を1回ごとに確かめさせ、安全に気を付けさせる。</li> <li>・まっすぐ前転できないときや腰が高く上がらないときは、お互いに教え合ったり、教師が支援したりして練習させる。</li> </ul> <p>○練習の成果を確認する。</p> <p>○教師が合格かどうか評価する。グループ内で、喜び合ったり、アドバイスしたりさせる。</p> <p>〈技の評価〉 3秒動かない着地ができれば「合格」 その他は「もう1回」</p>	<p>跳び箱 ロイター板 マット 安全マット</p>
<p>終 末 7分</p>	<p>7 片付けをする。</p> <p>8 学習のふり返しをする。</p> <p>9 あいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで器械・器具を持つなど、安全面に十分配慮する。</li> </ul> <p>○今日の学習をふり返し、授業の課題についての自分や友達の様子について学習カードに記録させる。発表しながら学びを共有させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>☆まっすぐに台上前転するためのポイントについて学び合い、見付けている。 (観察・学習カード)</p> </div>	<p>移動黒板 学習カード</p>

(4) 場の設定

【場1：基本の動きづくり①～⑤】 場2：これまでに学習した技】



【場3】 台上前転

- ・フォーム跳び箱コース (トントン前転または助走からの台上前転)
- ・ロイター板、跳び箱コース

